

# 2019年度 決算概要

## I. 2019年度 連結業績概要

## II. 補足資料

シャープ株式会社

2020年5月19日

### 【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

※前年増減額等は、表示された億円単位の金額を元に算出しております。

## I . 2019年度 連結業績概要

- ・ 本日はご多忙な中、ご参加頂きありがとうございます。  
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、パワーポイント資料に沿って、ご説明いたします。

## 2019年度 連結業績概要(1)

---

- 第1四半期から第3四半期まで想定通りに推移するも  
第4四半期は新型コロナウイルスの世界的な流行により、  
非常に厳しい事業環境となる
- 着実にトランスフォーメーションを推進していることもあり、  
こうした状況下でも、通期の最終黒字を確保
- 現在、こうした情勢変化への柔軟な対応を進めるとともに、  
8K+5GとAIoTを梃子に、新規市場・新規事業領域での  
取り組みを推進している

**SHARP**

2

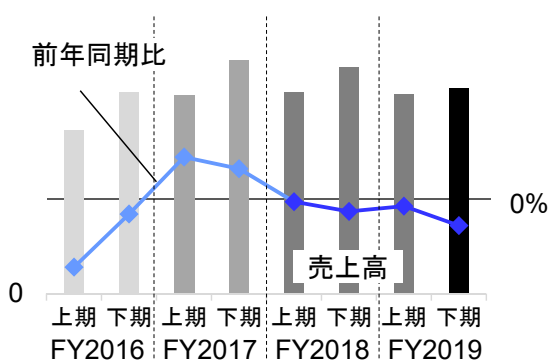
- まず、2019年度の連結業績の概要です。
- 2019年度は、第1四半期から第3四半期まで 想定通りに推移しましたが、  
第4四半期は 新型コロナウイルスの世界的な流行により、  
非常に厳しい事業環境となりました。
- しかしながら、着実にトランスフォーメーションを推進していることもあり、  
こうした状況下でも、通期での最終黒字を確保することができました。
- また、現在、当社では、こうした情勢変化への柔軟な対応を進めるとともに、  
8K+5GとAIoTを梃子に、新規市場・新規事業領域での取り組みを  
推進しております。

# 2019年度 連結業績概要(2)

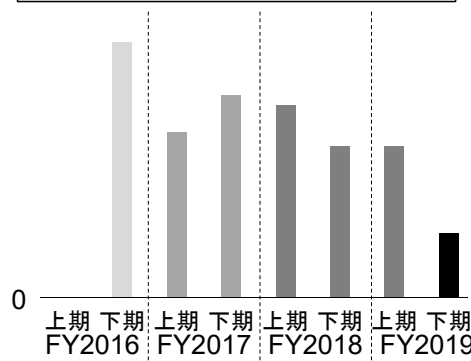
(単位:十億円)

	2018年度	2019年度			Q3時予想との主な差異			2019年度	
	通期	上期	下期	通期	前同比	コロナ 影響	退職給付 費用増	投資有価証券 評価損	(Q3時) 通期予想
売上高	2,400.0	1,120.6	1,150.5	2,271.2	-5.4%	-178.0			2,450.0
営業利益	84.1 (3.5%)	36.9 (3.3%)	15.8 (1.4%)	52.7 (2.3%)	-37.3%	-36.0	-8.0		100.0 (4.1%)
経常利益	69.0 (2.9%)	33.1 (3.0%)	22.4 (1.9%)	55.5 (2.4%)	-19.5%	-36.0	-8.0		95.0 (3.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	74.2 (3.1%)	27.3 (2.4%)	-6.4 (-0.6%)	20.9 (0.9%)	-71.8%	-36.0	-8.0	-16.1	80.0 (3.3%)
平均為替レート									
ドル円	109.91	107.63	107.85	107.74					
ユーロ円	126.90	119.91	118.72	119.32					

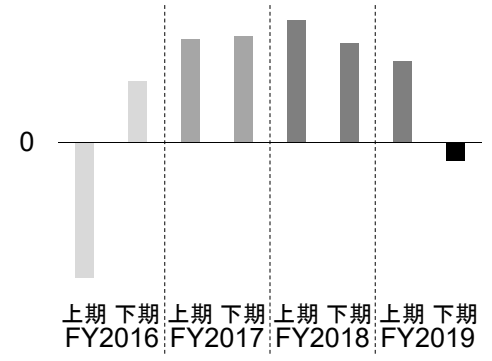
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



SHARP

- ・ 続いては、2019年度の業績数値です。
- ・ 売上高は、前年度比5.4%減の2兆2,712億円となりました。
- ・ 利益につきましては、  
営業利益が 37.3%減の 527億円 経常利益が 19.5%減の 555億円、  
親会社株主に帰属する当期純利益は 71.8%減の 209億円となりました。
- ・ ほぼ、5月8日に公表した通期予想通りの着地となりました。  
なお、前回予想となる 第3四半期 決算発表時の予想との主な差異は、  
新型コロナウイルスの影響が、売上高で約1,780億円、営業利益で約360億円、  
退職給付費用が増加した影響が、営業利益で約80億円、  
投資有価証券評価損による影響が、最終利益で 161億円あったことなどです。
- ・ また、足もと、各国で経済活動制限が緩和される動きがあります。  
営業外損益などは予想しにくいものの、こうした流れが続けば、本業が回復し、  
売上高と営業利益については、2020年度の上期に 2019年度の下期を、  
2020年度の下期には 2019年度の上期を上回り、  
2020年度 通期では 2019年度を上回る見通しです。  
しかしながら、新型コロナウイルスの動向を予測することが困難であることから、  
業績予想の公表は、見送らせていただいております。  
第1四半期の業績が明らかとなる 8月を目処に、開示させていただきます。

# 2019年度における新型コロナウイルスの影響と当社の対応

## 共通

- ・在宅勤務の拡大に伴う機器設置の延期
- ・世界的な物流の混乱

## 欧州

### ビジネスソリューション・テレビ

- ・コピーボリューム・サービス売上の減少
- ・外出制限・経済活動停止や制限に伴う販売減

## 米州

### ビジネスソリューション・白物家電

- ・コピーボリューム・サービス売上の減少
- ・ビルトイン大型調理家電などの需要減少

## 中国

### テレビ・白物家電

- ・販売店営業停止・外出制限による販売減
- ・工場稼働停止などに伴う影響

## 国内

### 通信・テレビ・白物家電・PC

- ・中国・ASEAN工場の低稼働などに伴う商材の不足
- ・一部量販店の休業による実売の減少
- ・設置工事を伴う大型家電の販売減

## ASEAN

### テレビ・白物家電

- ・外出制限・経済活動停止や制限に伴う販売減

## デバイス

### ディスプレイ・その他デバイス

- ・(車載向けやスマホ向けなど)納入先工場が稼働停止や低稼働となった影響
- ・中国自社工場の稼働停止影響
- ・顧客の在宅勤務拡大などによる販売の減少

## 当社の対応

- ・「新しい生活様式」の広がりにより、これまでとは異なる製品・サービスへの需要が高まる。  
→独自技術を活かし、「新しい生活様式」をサポートする製品・サービスなどの強化・創出に取り組む。
- 実体経済の変化をタイムリーにとらえ、状況に応じた柔軟な対応に努める。

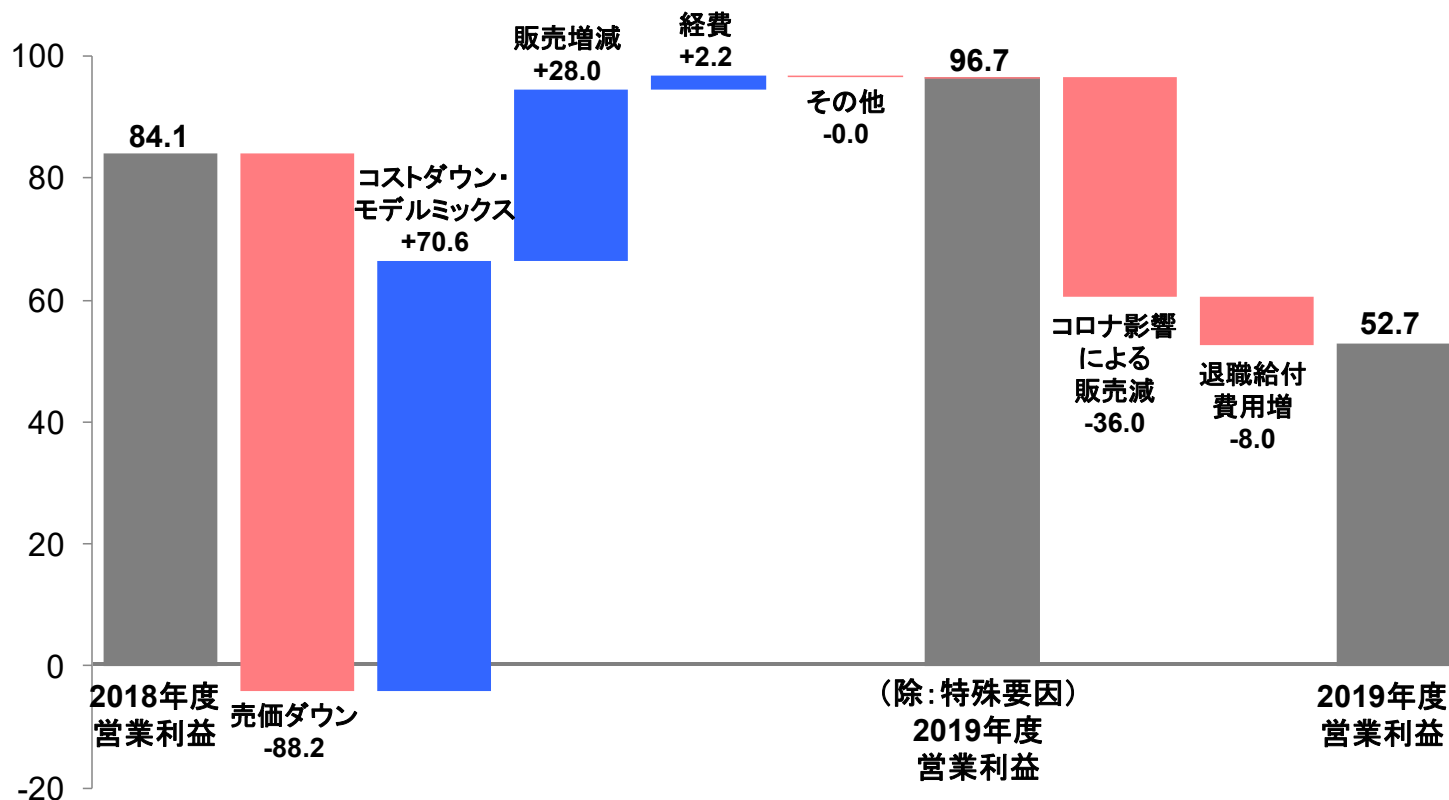
SHARP

4

- ・ 次のスライドをご覧ください。2019年度における新型コロナウイルスの影響と当社の対応です。
- ・ まず、全社に共通する影響です。世界的な物流の混乱や、在宅勤務の拡大に伴う機器設置の延期によるものなどがありました。
- ・ 次は、商品事業での影響です。国内では、中国やASEANの工場が低稼働となったことに伴い商材を確保できなかった影響や、3月後半に、一部量販店が営業を取りやめた影響などもあり、通信や白物家電、テレビ、パソコン事業などで、公表に齟齬が生じました。
- ・ 中国では、販売店の営業停止や外出規制、工場の稼働停止などによる影響があり、テレビや白物家電の販売が減少しました。
- ・ ASEANでは、マレーシアやフィリピン、インドネシアなどで外出制限や経済活動制限が実施され、テレビや白物家電、ビジネスソリューションなどの売上に影響が出ました。
- ・ 欧州や米州では、ビジネスソリューションで、コピーボリュームやサービス売上が減少したほか、欧州ではテレビ、米州では白物家電などで影響がありました。
- ・ 一方、デバイス製品は、自社や納入先の工場が稼働停止あるいは低稼働となったことなどから、2月以降、車載向けやスマホ向けの販売に大きな影響が出るなどしました。
- ・ 足もと、サプライチェーンについては、段階的に正常化しつつあります。コストダウンや経費削減を進め、さらなる体質強化を図るとともに、独自技術も活用し、自動調理鍋「ヘルシオ ホットクック」や料理キット宅配サービス「ヘルシオデリ」、パソコン、ビジネス向け大型ディスプレイ、ビジネスコミュニケーションサービス「LINC Biz」など、今後、新たな需要が見込まれる「新しい生活様式」をサポートする製品・サービスの強化や創出にも取り組みます。また、こうした取り組みに固執することなく、実体経済の変化をタイムリーにとらえ、状況に応じた柔軟な対応に努めてまいります。

# 2019年度 営業利益 要因別増減分析(対前年)

(単位:十億円)



SHARP

5

- ・ 次のグラフは、2019年度の営業利益の前年度に対する増減を要因別にまとめたものです。
- ・ 2019年度は、ご覧のように、新型コロナウイルスの流行による約360億円の影響や退職給付費用の増加による約80億円の影響など、想定外の特殊要因がありました。
- ・ これら特殊要因を除くと、「売価ダウン」による 882億円の収益の減少、「コストダウン・モデルミックス」による 706億円の収益の改善、「販売増減」による 280億円の利益の増加、「経費」の削減による 22億円の収支影響などがありました。

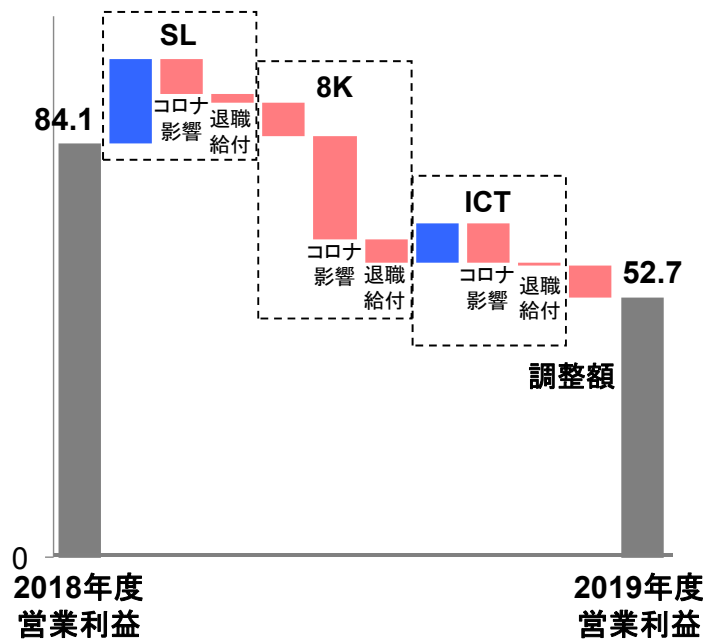
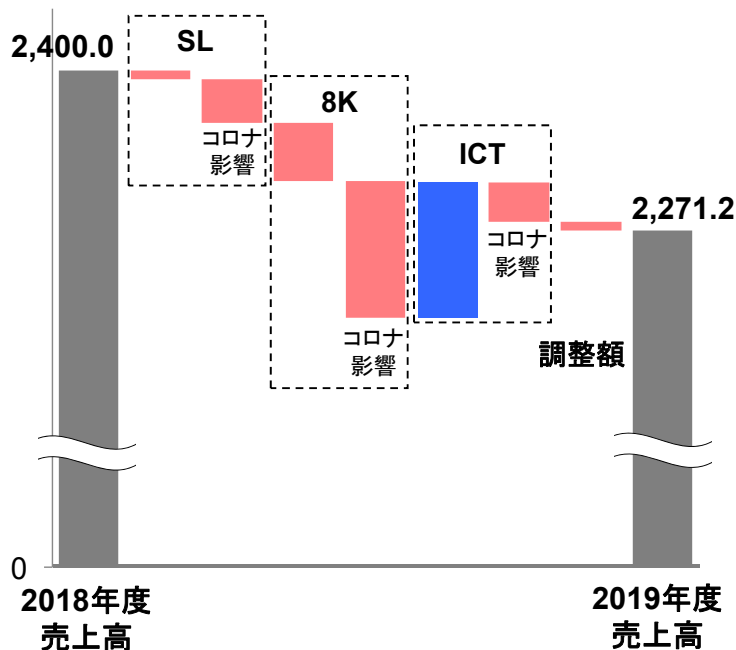
# 2019年度 セグメント別増減分析(対前年)

売上高

営業利益

(単位:十億円)

(単位:十億円)



SL :スマートライフ

8K :8Kエコシステム

ICT :ICT

**SHARP**

6

・ 次のスライドは、前年同期からの売上高と営業利益の増減をセグメント別にまとめております。

・ 売上高につきましては、ICTが増加した一方、スマートライフと8Kエコシステムが減少しました。

営業利益につきましては、スマートライフが増益となり、8KエコシステムとICTが減益となりました。

特殊要因である新型コロナウイルスや退職給付費用の増加について、セグメントごとの影響が分かるよう、表示しておりますので、ご覧いただければと思います。

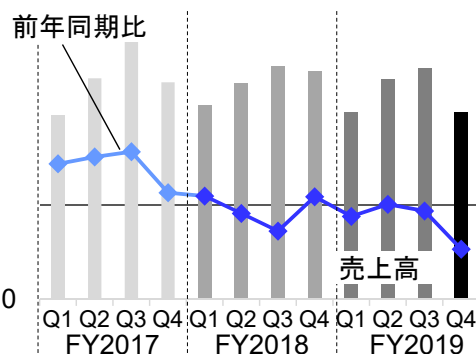


# 2019年度 第4四半期 連結業績概要

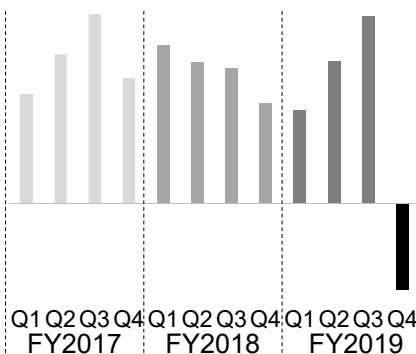
(単位:十億円)

	2018年度				2019年度				前同比
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	
売上高	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9	605.6	634.9	515.6	-18.0%
営業利益	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)	15.8 (2.5%)	14.6 (2.8%)	22.3 (3.7%)	29.4 (4.6%)	-13.6 (-2.6%)	-
経常利益	21.2 (4.0%)	21.9 (3.7%)	18.8 (2.9%)	6.9 (1.1%)	13.9 (2.7%)	19.1 (3.2%)	31.0 (4.9%)	-8.5 (-1.7%)	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	19.2 (3.6%)	21.7 (3.7%)	22.1 (3.4%)	11.1 (1.8%)	12.5 (2.4%)	14.8 (2.5%)	25.0 (3.9%)	-31.4 (-6.1%)	-
平均為替レート									
ドル円	108.07	110.46	111.90	109.21	108.90	106.35	107.76	107.94	
ユーロ円	128.56	128.12	127.28	123.66	121.99	117.84	118.82	118.62	

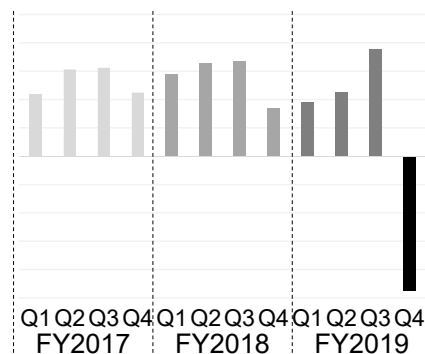
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



SHARP

- ・ 続いては、2019年度 第4四半期の業績数値です。
- ・ 売上高は、前年同期比 18.0%減の 5,156億円となりました。
- ・ 損益につきましては、  
営業損失が 136億円、  
経常損失が 85億円、  
親会社株主に帰属する四半期純損失が、314億円となりました。

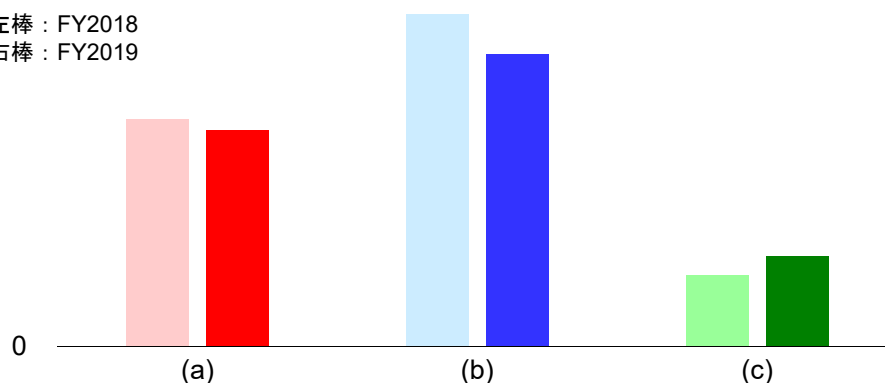


# セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度					コロナ影響
	Q1-Q3	Q4	通期	Q1-Q3	Q4	前同比	通期	前年比	
(a) スマートライフ	673.0	225.5	898.6	662.6	193.6	-14.1%	856.2	-4.7%	-36.0
(b) 8Kエコシステム	979.2	334.2	1,313.5	898.8	258.4	-22.7%	1,157.2	-11.9%	-110.0
(c) ICT	177.3	103.5	280.9	267.7	89.7	-13.4%	357.5	+27.3%	-32.0
小計	1,829.6	663.4	2,493.0	1,829.2	541.8	-18.3%	2,371.0	-4.9%	
調整額	-58.1	-34.8	-93.0	-73.6	-26.1	-	-99.8	-	-
合計	1,771.5	628.5	2,400.0	1,755.5	515.6	-18.0%	2,271.2	-5.4%	-178.0

左棒：FY2018  
右棒：FY2019



SHARP

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

8

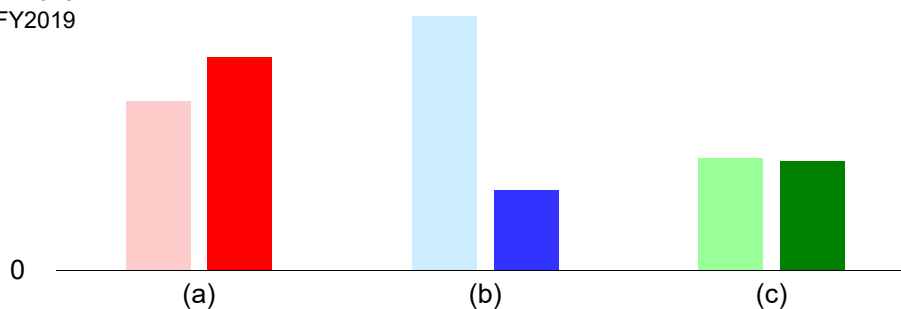
- ・ 次のスライドは、セグメント別 売上高の一覧です。
- ・ スマートライフの通期の売上高は、前年度比 4.7%減の 8,562億円となりました。  
白物家電は、海外でエアコンや冷蔵庫、洗濯機が伸長し、国内消費増税の影響などがあるなか、増収となりました。  
デバイス事業は、新型コロナウイルスの影響もあり、減収となりました。
- ・ 8K エコシステムは、11.9%減の 1兆1,572億円となりました。  
ディスプレイデバイスでは、PC・タブレット向けのパネルが伸長した一方、スマートフォン向けや、車載向けが減収となりました。  
また、完成品のテレビも、中国や国内などで減収となり、前年度を下回りました。
- ・ ICTは、27.3%増の 3,575億円となりました。  
キャリアの料金体系変更などもあり、通信が前年度を下回りましたが、IoT事業の売上が伸長したほか、Dynabook株式会社を連結した効果もあり、セグメントトータルで 増収となっております。
- ・ なお、新型コロナウイルスによる売上影響額は、スマートライフで約360億円、8Kエコシステムで約1,100億円、ICTで約320億円となっております。

# セグメント別営業利益

※()内の数字は営業利益率です。(単位:十億円)

	2018年度			2019年度				コロナ影響	
	Q1-Q3	Q4	通期	Q1-Q3	Q4	前同比	通期		前年比
(a) スマートライフ	26.1 (3.9%)	5.3 (2.4%)	31.4 (3.5%)	35.1 (5.3%)	4.5 (2.4%)	-13.8%	39.7 (4.6%)	+26.3%	-7.0
(b) 8Kエコシステム	40.5 (4.1%)	6.8 (2.1%)	47.3 (3.6%)	29.3 (3.3%)	-14.4 (-5.6%)	-	14.9 (1.3%)	-68.5%	-21.0
(c) ICT	12.2 (6.9%)	8.6 (8.3%)	20.8 (7.4%)	15.5 (5.8%)	4.6 (5.2%)	-46.0%	20.2 (5.7%)	-3.0%	-8.0
小計	78.8 (4.3%)	20.8 (3.1%)	99.6 (4.0%)	80.0 (4.4%)	-5.1 (-1.0%)	-	74.9 (3.2%)	-24.9%	
調整額	-10.6	-4.9	-15.5	-13.6	-8.4	-	-22.1	-	
合計	68.2 (3.9%)	15.8 (2.5%)	84.1 (3.5%)	66.3 (3.8%)	-13.6 (-2.6%)	-	52.7 (2.3%)	-37.3%	-36.0

左棒: FY2018  
右棒: FY2019



SHARP

9

- ・ 続いては、セグメント別 営業利益の一覧になります。  
各セグメントとも通期で黒字となっております。
- ・ スマートライフの通期の営業利益は、前年度比 26.3%増の 397億円となりました。  
コストダウンの効果などによるものです。
- ・ 8K エコシステムは、前年度比 68.5%減の、149億円となりました。  
売上が減少した影響はありましたが、コストダウンを推進したことなどから、  
黒字を確保しております。
- ・ ICTは、前年度比 3.0%減の 202億円となりました。  
通信事業は、販売の減少に伴い 減益となったものの、  
引き続き 収益を計上しております。  
また、Dynabook株式会社は、年間を通じ、全四半期で黒字となりました。
- ・ なお、新型コロナウイルスによる利益影響額は、  
スマートライフで約70億円、8Kエコシステムで約210億円、  
ICTで約80億円となっております。

# 営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2018年度		2019年度			
	Q4	通期	Q4	前同 増減額	通期	前同 増減額
営業利益	15.8	84.1	-13.6	-29.4	52.7	-31.4
営業外損益	-8.8	-15.1	+5.0	+13.8	+2.7	+17.8
内:支払利息	-1.0	-4.3	-1.0	0.0	-4.7	-0.4
為替差損益	-1.3	-5.7	+1.8	+3.1	+3.0	+8.7
持分法による投資損益	-4.1	-9.3	-0.5	+3.6	-3.7	+5.6
経常利益	6.9	69.0	-8.5	-15.4	55.5	-13.5
特別損益	-1.3	+6.5	-17.6	-16.3	-17.2	-23.7
内:投資有価証券評価損	-	-0.0	-16.1	-16.1	-16.1	-16.1
税前利益	5.6	75.5	-26.2	-31.8	38.3	-37.2
法人税等 他	+5.4	-1.3	-5.2	-10.6	-17.3	-16.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	11.1	74.2	-31.4	-42.5	20.9	-53.3

SHARP

10

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ ご覧のように、2019年度 第4四半期には、「特別損失」として、投資有価証券評価損が発生しております。

# 連結貸借対照表推移

- ・現預金は、12月末の2,159億円に対し、2,250億円に
- ・純資産は2,951億円、自己資本比率は15.0%となる

(単位:十億円)

	2018年度		2019年度			2018年度		2019年度	
	3月末	12月末	3月末	12月末		3月末	12月末	3月末	
現預金	266.6	215.9	225.0		支払手形・買掛金	410.3	392.7	349.2	
受取手形・売掛金	539.9	511.9	429.1		短期借入金	81.4	237.0	237.7	
たな卸資産	243.8	298.3	294.7		1年内社債	30.0	0.0	0.0	
その他	90.9	128.2	139.6		その他	291.3	291.6	274.0	
<b>流動資産計</b>	<b>1,141.3</b>	<b>1,154.4</b>	<b>1,088.6</b>		<b>流動負債計</b>	<b>813.1</b>	<b>921.4</b>	<b>861.0</b>	
有形固定資産	405.0	423.1	410.7		社債	0.0	0.0	0.0	
無形固定資産	39.6	44.6	45.5		長期借入金	538.2	539.0	538.7	
投資その他資産	280.2	308.3	287.4		その他	142.5	134.2	137.4	
<b>固定資産計</b>	<b>724.9</b>	<b>776.0</b>	<b>743.7</b>		<b>固定負債計</b>	<b>680.7</b>	<b>673.3</b>	<b>676.1</b>	
繰延資産	0.0	0.0	0.0		<b>純資産</b>	<b>372.4</b>	<b>335.7</b>	<b>295.1</b>	
<b>資産合計</b>	<b>1,866.3</b>	<b>1,930.4</b>	<b>1,832.3</b>		<b>負債純資産合計</b>	<b>1,866.3</b>	<b>1,930.4</b>	<b>1,832.3</b>	
期末日レート									
ドル円	110.01	108.55	107.83		自己資本比率	18.8%	16.3%	15.0%	
ユーロ円	123.06	121.01	118.15		自己資本	350.6	313.7	275.3	

**SHARP**

11

- ・ 続いては、貸借対照表の推移です。
- ・ 3月末の「現預金」は、12月末の2,159億円に対し、2,250億円に増加しております。

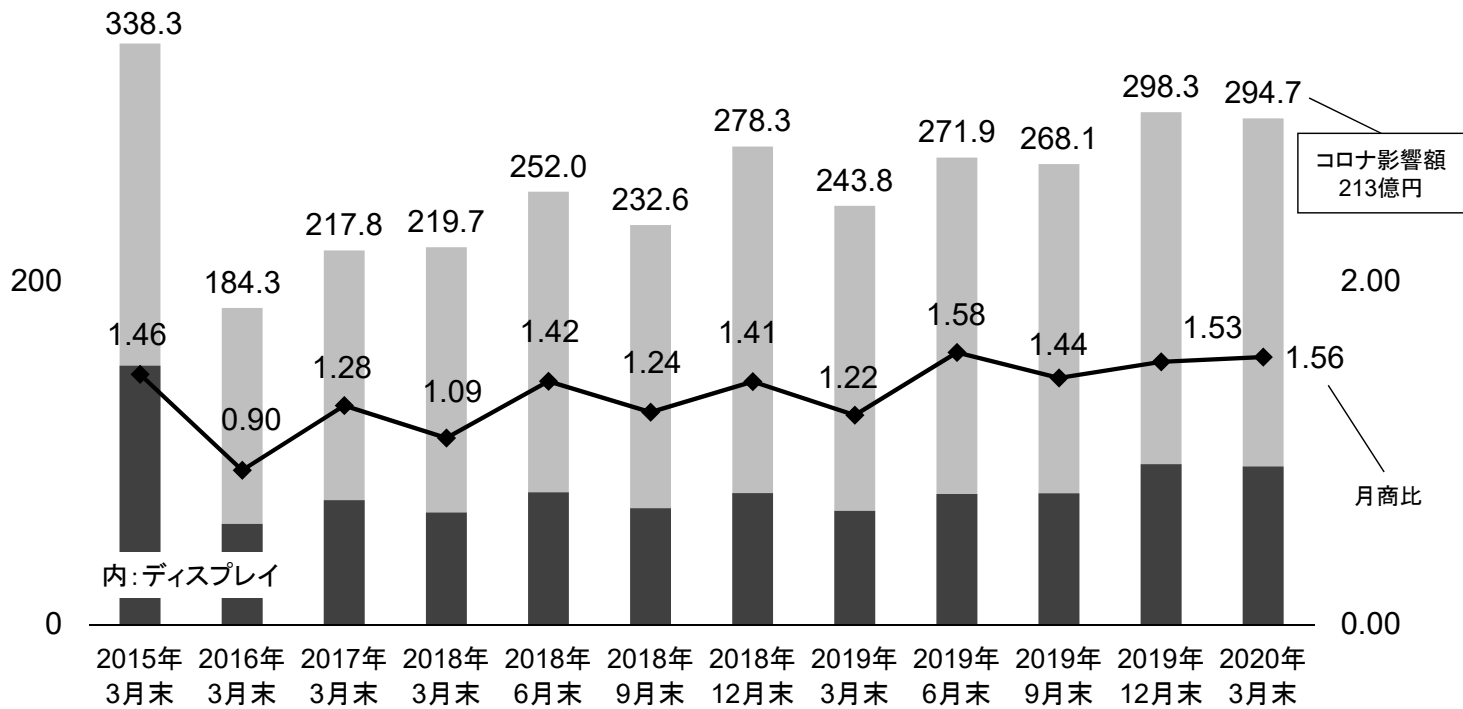
最終損失の計上に伴い、「純資産」は2,951億円、「自己資本比率」は15.0%となり、12月末からそれぞれ減少しております。

# たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、2019年12月末の2,983億円に対し、2,947億円に
- ・今後の販売計画等を勘案し、引き続き適正な在庫水準を維持

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



SHARP

12

- ・ 次のスライドをご覧ください。「たな卸資産」の推移になります。
- ・ 2019年度末の「たな卸資産」は、第3四半期末の 2,983億円から 2,947億円に減少し、月商比は、0.03ヶ月増の 1.56ヶ月となっております。
- ・ 新型コロナウイルスの動向や、それに伴うデバイス顧客の需要動向など、事業環境の変化をさらに注視し、適正な在庫水準の維持に努めてまいります。

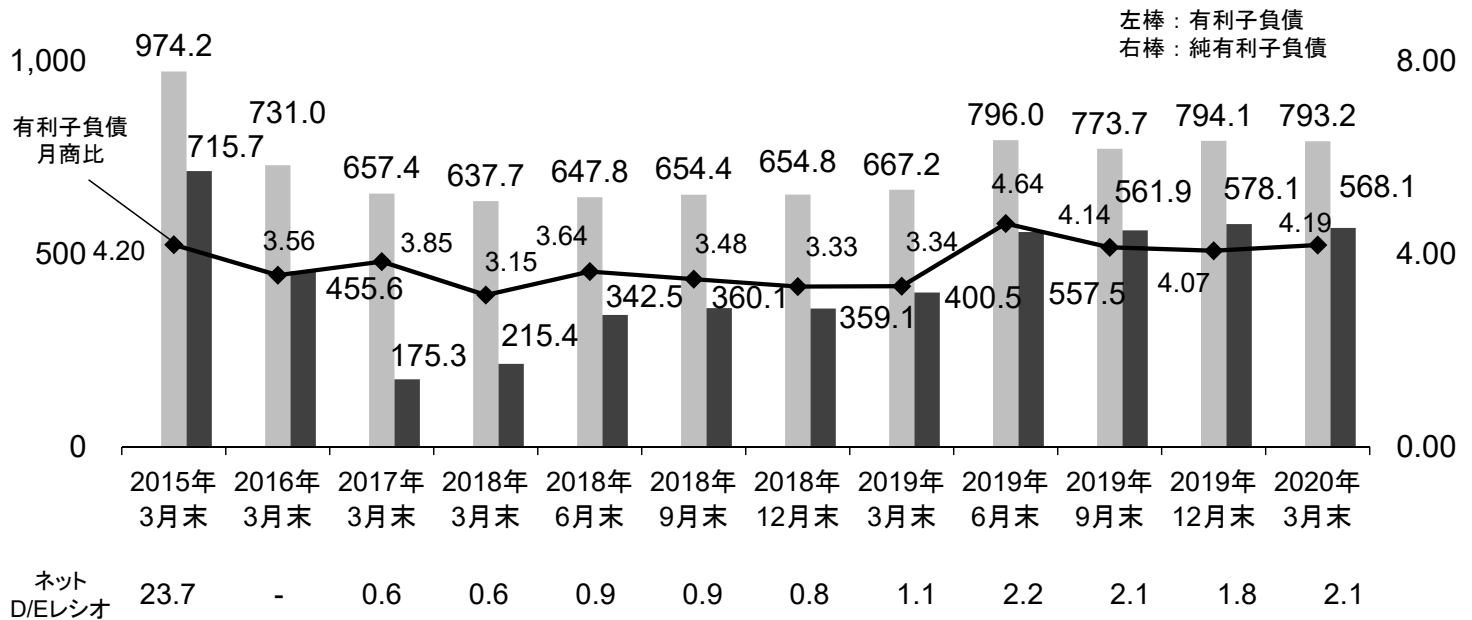
なお、新型コロナウイルスの影響により、「たな卸資産」は約213億円 増加しております。

# 有利子負債の推移

- ・有利子負債は、2019年12月末の7,941億円に対し、7,932億円に  
月商比は、4.07ヶ月に対し、4.19ヶ月に
- ・純有利子負債※は、12月末の5,781億円に対し、5,681億円になる

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



※純有利子負債：有利子負債 - 現預金

SHARP

13

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
- ・ 2019年度末の有利子負債は、  
第3四半期末の 7,941億円に対し、7,932億円となりました。
- 純有利子負債は、  
第3四半期末の 5,781億円に対し、5,681億円となっております。
- ・ 今後とも、在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、  
キャッシュフローの改善を図ります。

## Ⅱ．補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめております。
- ・ 2019年度は、最終黒字を確保することができましたが、新型コロナウイルスの影響による 厳しい状況は続いております。  
  
環境の変化に対応した 柔軟な事業経営を行うとともに、  
トランスフォーメーションを継続し、  
業績の回復、財務体質の改善、株主価値の向上を図ってまいります。
- ・ また、同時に、当社の持つ技術・リソースを積極的に活用して、  
製品やサービス、医療物資を提供し、社会に貢献してまいります。  
そして、皆様とともに今回の危機を克服していきたいと考えております。
- ・ ご清聴ありがとうございました。



# 連結業績概要

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,129.0	1,271.0	2,400.0	1,120.6	1,150.5	2,271.2
営業利益	47.0	37.1	84.1	36.9	15.8	52.7
(利益率)	(4.2%)	(2.9%)	(3.5%)	(3.3%)	(1.4%)	(2.3%)
経常利益	43.2	25.7	69.0	33.1	22.4	55.5
(利益率)	(3.8%)	(2.0%)	(2.9%)	(3.0%)	(1.9%)	(2.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	40.9	33.2	74.2	27.3	-6.4	20.9
(利益率)	(3.6%)	(2.6%)	(3.1%)	(2.4%)	(-0.6%)	(0.9%)

# 四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
売上高	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9	605.6	634.9	515.6
営業利益	24.8	22.2	21.2	15.8	14.6	22.3	29.4	-13.6
(利益率)	(4.6%)	(3.7%)	(3.3%)	(2.5%)	(2.8%)	(3.7%)	(4.6%)	(-2.6%)
経常利益	21.2	21.9	18.8	6.9	13.9	19.1	31.0	-8.5
(利益率)	(4.0%)	(3.7%)	(2.9%)	(1.1%)	(2.7%)	(3.2%)	(4.9%)	(-1.7%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	19.2	21.7	22.1	11.1	12.5	14.8	25.0	-31.4
(利益率)	(3.6%)	(3.7%)	(3.4%)	(1.8%)	(2.4%)	(2.5%)	(3.9%)	(-6.1%)

# セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
スマートライフ	439.4	459.1	898.6	415.0	441.2	856.2
8Kエコシステム	628.7	684.7	1,313.5	574.4	582.8	1,157.2
ICT	99.5	181.3	280.9	179.3	178.1	357.5
小計	1,167.8	1,325.2	2,493.0	1,168.8	1,202.2	2,371.0
調整額	-38.7	-54.2	-93.0	-48.1	-51.6	-99.8
合計	1,129.0	1,271.0	2,400.0	1,120.6	1,150.5	2,271.2

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

# セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
スマートライフ	14.8 (3.4%)	16.5 (3.6%)	31.4 (3.5%)	18.8 (4.5%)	20.8 (4.7%)	39.7 (4.6%)
8Kエコシステム	27.3 (4.3%)	20.0 (2.9%)	47.3 (3.6%)	17.6 (3.1%)	-2.6 (-0.5%)	14.9 (1.3%)
ICT	9.4 (9.5%)	11.3 (6.3%)	20.8 (7.4%)	10.8 (6.1%)	9.3 (5.3%)	20.2 (5.7%)
小計	51.6 (4.4%)	48.0 (3.6%)	99.6 (4.0%)	47.3 (4.1%)	27.5 (2.3%)	74.9 (3.2%)
調整額	-4.6	-10.9	-15.5	-10.4	-11.7	-22.1
合計	47.0 (4.2%)	37.1 (2.9%)	84.1 (3.5%)	36.9 (3.3%)	15.8 (1.4%)	52.7 (2.3%)

※()内の数字は営業利益率です。

## 四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
スマートライフ	203.6	235.7	233.6	225.5	181.0	233.9	247.5	193.6
8Kエコシステム	291.1	337.6	350.4	334.2	262.5	311.8	324.3	258.4
ICT	56.4	43.1	77.7	103.5	96.2	83.1	88.4	89.7
小計	551.3	616.4	661.8	663.4	539.8	628.9	660.3	541.8
調整額	-17.4	-21.3	-19.3	-34.8	-24.8	-23.3	-25.4	-26.1
合計	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9	605.6	634.9	515.6

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

19

## 四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
スマートライフ	5.7 (2.8%)	9.0 (3.9%)	11.2 (4.8%)	5.3 (2.4%)	6.2 (3.5%)	12.5 (5.4%)	16.2 (6.6%)	4.5 (2.4%)
8Kエコシステム	14.1 (4.9%)	13.1 (3.9%)	13.2 (3.8%)	6.8 (2.1%)	6.5 (2.5%)	11.0 (3.5%)	11.7 (3.6%)	-14.4 (-5.6%)
ICT	7.2 (12.8%)	2.2 (5.3%)	2.7 (3.5%)	8.6 (8.3%)	7.3 (7.6%)	3.5 (4.3%)	4.7 (5.3%)	4.6 (5.2%)
小計	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)	27.2 (4.1%)	20.8 (3.1%)	20.1 (3.7%)	27.2 (4.3%)	32.7 (5.0%)	-5.1 (-1.0%)
調整額	-2.2	-2.3	-5.9	-4.9	-5.5	-4.8	-3.2	-8.4
合計	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)	15.8 (2.5%)	14.6 (2.8%)	22.3 (3.7%)	29.4 (4.6%)	-13.6 (-2.6%)

※()内の数字は営業利益率です。

SHARP

20

# 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
設備投資	27.8	28.1	55.9	29.3	30.8	60.2
内:ディスプレイ	9.2	14.5	23.8	10.2	9.1	19.4
減価償却費	34.5	37.3	71.9	30.8	36.2	67.1
研究開発費	53.8	54.7	108.5	49.9	50.6	100.5

(単位:円)

平均為替レート	2018年度			2019年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
米ドル	109.27	110.55	109.91	107.63	107.85	107.74
ユーロ	128.34	125.47	126.90	119.91	118.72	119.32

# 四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
設備投資	11.3	16.4	14.7	13.4	9.0	20.2	23.8	6.9
内:ディスプレイ	4.4	4.7	8.3	6.2	3.6	6.6	5.5	3.6
減価償却費	17.1	17.3	18.9	18.4	14.9	15.9	18.0	18.1
研究開発費	30.4	23.3	32.0	22.6	28.9	21.0	24.9	25.6

(単位:円)

平均為替レート	2018年度				2019年度			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
米ドル	108.07	110.46	111.90	109.21	108.90	106.35	107.76	107.94
ユーロ	128.56	128.12	127.28	123.66	121.99	117.84	118.82	118.62

# SHARP

Be Original.

